

オンライン・システム ニュースレター

学術情報センター [〒112-8640 東京都文京区大塚 3-29-1]

目録情報課

図書目録情報係 TEL:03(3942)6983, 6984 FAX:03(3944)7131

雑誌目録情報係 TEL:03(3942)6985, 6986 FAX: 同上

相互協力係 TEL:03(3942)6987, 6988 FAX: 同上

共同利用課 TEL:03(3942)6933, 6934 FAX:03(3942)6797

システム管理課 TEL:043(285)4914, 4915 FAX:043(290)1380

目 次

| | |
|---|----|
| 1. 図書書誌レコード件数 4,000 万件突破! | 2 |
| 2. メインシステム機種更新に伴うサービス休止 | 3 |
| 3. N1 ネットワーク経由での接続の廃止 | 3 |
| 4. 学術雑誌総合目録和文編 2000 年版データ作成説明会の開催 | 4 |
| 5. 学術雑誌総合目録 CD-ROM 版 1998 の刊行 | 5 |
| 6. 平成 11 年度新 CAT/ILL システム説明会の開催報告 | 6 |
| 7. 新 CAT/ILL システム Q&A(3) 多言語対応システム | 7 |
| 8. ILL システムでの RECON ファイルの利用 | 9 |
| 9. 連載：新システム対応クライアント紹介（その 5） | 10 |
| 10. 連載：総合目録データベースの品質管理事例集（その 3：雑誌編 1） | 13 |
| 11. 会議開催報告 | 21 |
| 12. レコード調整 | 23 |

本誌は，次のホームページの目録担当者のページでも公開しています

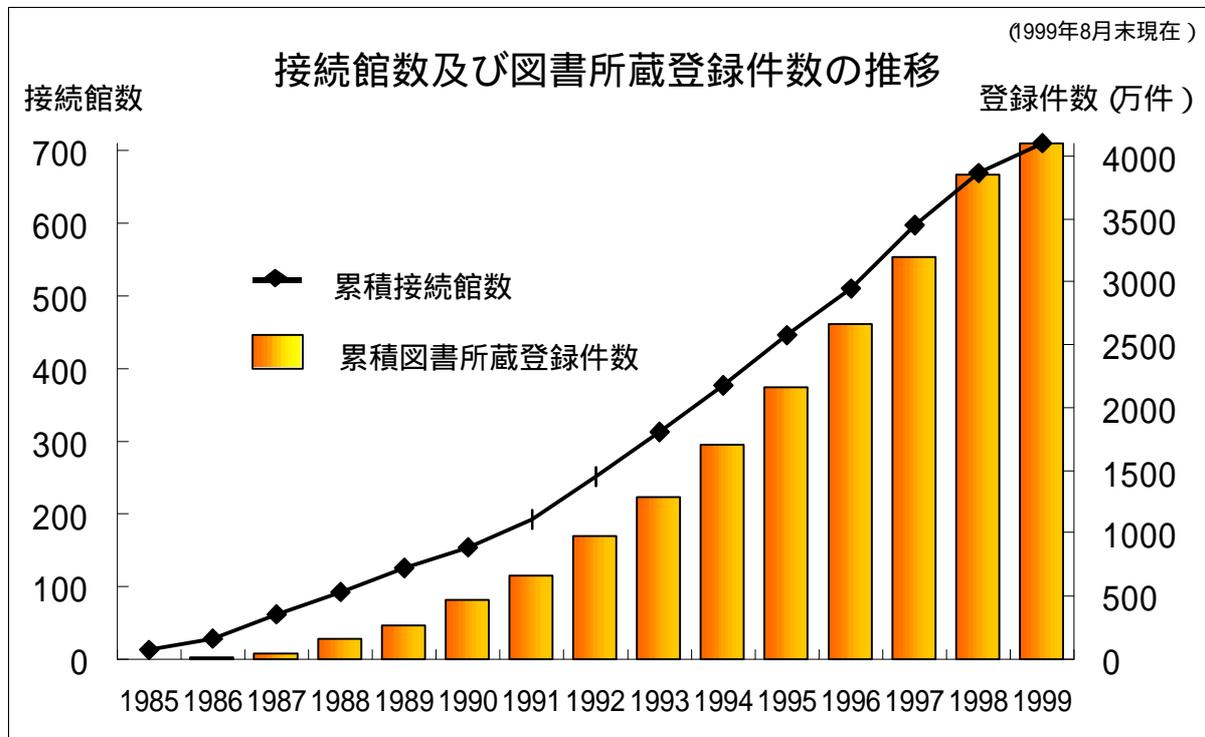
<http://www.cat.op.nacsis.ac.jp/>

図書所蔵レコード件数 4,000 万件突破!

平成 11 年 6 月 28 日(月)に、総合目録データベース図書所蔵レコードの件数が 4,000 万件を突破しました。昭和 60 年 7 月に第 1 号の所蔵レコードが登録されてから、13 年 11 か月めの達成となります。以下のように、達成に要する期間も毎回大幅に短縮されています。

| 件数 | 達成日 | 運用開始からの年月 | 達成に要した期間 |
|----------|--------------------------|---------------|--------------|
| 1,000 万件 | 平成 5 年(1993 年) 4 月 27 日 | 7 年 9 か月で達成 | 7 年 9 か月で達成 |
| 2,000 万件 | 平成 7 年(1995 年)12 月 1 日 | 10 年 5 か月で達成 | 2 年 7 か月で達成 |
| 3,000 万件 | 平成 9 年(1997 年)11 月 28 日 | 12 年 4 か月で達成 | 1 年 11 か月で達成 |
| 4,000 万件 | 平成 11 年(1999 年) 6 月 28 日 | 13 年 11 か月で達成 | 1 年 7 か月で達成 |

平成 11 年 7 月末には、目録所在情報サービスの接続館(参加機関)が 700 機関を超えました。今回の 4,000 万件突破は、ひとえに総合目録データベースの充実を目指して積極的に参加して下さった各機関各位の御尽力の賜物です。この場を借りて改めてお礼を申し上げますとともに、今後なお一層の御協力をお願いします。



(図書目録情報係)

メインシステム機種更新に伴うサービス休止

メインシステムの機種更新に伴い、年末年始にかけて、目録所在情報サービス（NACSIS-CAT/ILL）を以下のとおり休止させていただきます。

御迷惑をおかけいたしますが、御了承ください。

| | |
|---------------------------|--------|
| 平成 11 年 12 月 17 日（金）20:00 | サービス停止 |
| 平成 12 年 1 月 7 日（金）9:00 | サービス再開 |

なお、Webcat については、平成 11 年 12 月 28 日（火）12:00 に年内のサービスを終了します。サービス再開は、平成 12 年 1 月 7 日（金）9:00 となります。

（システム業務係）

N1 ネットワーク経由での接続の廃止

平成 11 年 12 月 17 日（金）20:00（平成 11 年の最終サービス日）をもって、N1 ネットワーク経由での目録所在情報サービスへの接続を廃止いたします。

N1 ネットワークの廃止については、学術情報センターニュース No.43 の記事「学術情報センターにおけるサービスシステムのオープンシステムへの移行計画」や新 CAT/ILL システム説明会などで、皆様にお知らせしたとおり、N1 ネットワークの 2000 年問題により、運用継続が不可能となったためです。何卒、御了承くださいますよう、お願いいたします。

なお、本件に関するお問い合わせは、システム管理課システム業務係(gyoum@op.nacsis.ac.jp) にお願ひいたします。

（システム業務係）

学術雑誌総合目録和文編2000年版データ作成説明会の開催

本誌前号No.67及び予備調査等で御案内しましたが、平成11年11月1日から平成12年3月31日までをデータ作成期間として、学術雑誌総合目録和文編2000年版の編集を行います(データ作成基準日は平成11年11月1日)。データ作成用資料等を、10月下旬までに参加館あてに送付します。

これに伴い、主に新規参加館及び新規担当者を対象として、次のとおり、東京と大阪の2か所でデータ作成説明会を開催します。

| 会場名 | 開催場所 | 開催日 | 開催時間 |
|------|---------------------------|-----------|---------------|
| 東京会場 | 東京大学大講堂 (安田講堂) | 11月5日(金) | 13:30 - 16:30 |
| 大阪会場 | 大阪府立中央図書館ホール (ライティホール) | 11月11日(木) | 〃 |

この説明会では、10月下旬に参加館に配布予定の「学術雑誌総合目録和文編データ作成マニュアル」に基づき、(1)新版編集の概要、(2)書誌・所蔵データの記入方法(入力規則)等に関して説明する予定です。

記入規則・操作方法等、従来の全国調査と同様ですので、既に全国調査を経験している場合は、この説明会に参加なさらなくともデータ作成に支障はありません。また、目録情報課のホームページ(URL: <http://www.cat.op.nacsis.ac.jp/>)においても、今回の説明会での説明内容及びマニュアルを11月上旬までに公開する予定ですので、随時、参照することができます。

今回の編集事業へ参加を表明されている図書館(室)に対しては、別途、この説明会に関する案内をお送りします。同封する所定の用紙により、説明会への参加をお申し込みください。

説明会に関するお問い合わせは、目録情報課 雑誌目録情報係までお願いします。

(雑誌目録情報係)

学術雑誌総合目録CD-ROM版1998の刊行

学術雑誌総合目録和文編1998年版冊子体に続き、和文編・欧文編データを統合したCD-ROM版が刊行されます。

CD-ROM版1998は、1996年に刊行したCD-ROM版を改訂するものです。1996年の刊行後に各図書館よりオンラインで更新された最新データを収録しています。全国約1,270の参加機関が所蔵する約22万種類の雑誌、約326万件の所蔵についての情報を収録することができました。前版に比較して約1万種類の雑誌、約23万件の所蔵の増加となります。

データ提供等、関係図書館の皆様の御協力には、改めて感謝いたします。

学術雑誌総合目録CD-ROM版1998(和文・欧文統合版)

- 規格 : Microsoft Windows95対応版(Microsoft Windows98でも動作可能)
- 総データ量 : CD-ROM2枚 各約500MB
- 収録データ数 : 雑誌数 約22万件, 所蔵件数 約326万件
- 刊行時期 : 平成11年10月上旬予定
- 予定価格 : 40,000円(税別・冊子体購入者は15,000円)
- 出版者 : 丸善株式会社



(雑誌目録情報係)

平成 11 年度新 CAT/ILL システム説明会の開催報告

平成 11 年度の新 CAT/ILL システムに関する説明会を、下記の日程で開催しました。

| 地区名 | 開催日 | 会場 |
|----------|--------------------------------|----------|
| 北海道地区 | 平成 11 年 7 月 13 日 (火) | 北海道大学 |
| 東北地区 | 平成 11 年 7 月 1 日 (木) | 東北大学 |
| 関東・甲信越地区 | 平成 11 年 6 月 29 日 (火), 30 日 (水) | 東京医科歯科大学 |
| 中部地区 | 平成 11 年 7 月 15 日 (木) | 名古屋大学 |
| 関西地区 | 平成 11 年 7 月 22 日 (木) | 京都大学 |
| 中国・四国地区 | 平成 11 年 7 月 27 日 (火) | 広島大学 |
| 九州・沖縄地区 | 平成 11 年 7 月 6 日 (火) | 九州大学 |

説明会では、平成 12 年 1 月からの運用を予定している多言語対応目録システムの概要について、小冊子「目録システムの多言語対応」を使った説明を行ったほか、中国語資料の取扱い、図書館システムの対応などについても配布資料により説明しました。また、多言語対応目録システムを利用した、学術情報センター開発の中国語クライアントのデモンストレーションも行いました。

例年と同様、総計約 1,000 名の参加がありました。これを機会に各図書館での多言語対応の検討を開始していただけるものと思います。

参加できなかった方々のために、説明会での配布資料を本号 (68 号) 付録に掲載しましたので、参考になさってください。

最後になりますが、会場を手配いただいた関係者の方には、この場を借りてお礼申し上げます。

「目録システムの多言語対応」 ▶

PDF 形式のものは、以下の URL に掲載しています。

URL:

<http://www.cat.op.nacsis.ac.jp/INFO/newcat/index.html>

なお、本小冊子の入手を希望なされる場合は、図書目録情報係まで FAX でお申し出ください。



(図書目録情報係)

新 CAT/ILL システム Q&A(3) 多言語対応システム

今回は、平成 11 年度に行った新 CAT/ILL システム説明会開催時にいただいた、目録システムの多言語対応に関する質問を中心に紹介します。説明会配布資料として本号付録に掲載したものと、あわせてお読みください。

なお、多言語対応システム関係の最新情報については、下記の新目録所在情報システムホームページも御覧ください。

URL:

<http://www.cat.op.nacsis.ac.jp/INFO/newcat/index.html>

Q1: 多言語目録システムに対応した図書館システム及びクライアントはあるのですか？

A1: 多言語対応システムの内容を公開したばかりですので、現時点对対応した図書館システム及びクライアントはありません。開発状況に関する情報を入手次第、上記ホームページ等でお知らせします。

Q2: 漢字統合インデックスの内容は、公開されるのですか？ また、図書館側で利用できるのですか？

A2: インデックス表自体が膨大なので、そのままの形での公開は考えていません。

図書館側で利用を希望するのであれば、電子媒体の形で提供可能です。

Q3: その他のヨミフィールドに、ピンインを必ず入力しなくてはいけないのでしょうか？

A3: 「中国語資料の取扱い I(3) ヨミの取扱い」にあるように、ピンインは選択事項ですので、必ず入力する必要があるわけではありません。

Q4: VT フィールドに、簡体字以外の形を記録することはできるのでしょうか？

A4: VT フィールドへの入力、可能です。

Q5: UCS 対応となった時には、キリル文字の現行システムにおける外字は、表示・入力できるのでしょうか？ 将来的には、アラビア文字やデーヴァナーガリ文字等の表示・入力も可能になるのでしょうか？

A5: UCS を入力できる環境と表示するためのフォントをもったクライアントであれば、キリル文字の現行システムにおける外字についても、入力・表示が可能です。

アラビア文字等も UCS では規定されていますが、表示するための UCS 対応フォントが存在しません。また、アラビア語資料の記述規則など、検討項目が残っており、実現時期は未定です。

Q6: 書誌レコード中の で囲まれた部分は、UCS に一括変換するとのことですが、図書館システム側に反映するための、変換した書誌レコード一覧などの提供は考えているのでしょうか？

A6: UCS への変換処理を実施した書誌レコードの情報は、何らかのかたちでの提供を考えています。

Q7: 音標符号をともなうキリル文字等、従来、EXC で入力できていた文字で、UCS に定義されていないものはどうなるのでしょうか？

A7: UCS では、一つの文字に一つのコードポイントを与えている場合と、複数のパーツを組み合わせて、合成文字として表現する場合があります。EXC で定義された文字の中には、合成文字でしか表現できないものもありますが、対応はとれています。よって、UCS 対応となったデータベース中で、複数のパーツで合成文字として表現されている文字も、UIP では従来どおり EXC 文字での表示が保障されます。

UCS 対応クライアントの場合、一つの文字に合成して表示できるかどうかは、クライアントの処理方法によって異なることとなります。

Q8: CHINA-MARC は中華人民共和国のものですが、台湾 MARC の導入予定はあるのでしょうか？

A8: 台湾 MARC は、導入する方向で検討しています。

Q9: 「中国語資料の取扱い」では、ピンインは全て小文字でしたが、デモのクライアント画面では大文字でした。どちらが正しいのでしょうか？

A9: ピンインは、全て小文字で入力します。

デモで使用したテスト用 CHINA-MARC では、原データが大文字であったため、そのまま大文字が表示されていました。正式に導入するときには、全て小文字に統一します。

(図書目録情報係)

ILL システムでの RECON ファイルの利用

平成 11 年 8 月 27 日(金)から, ILL システムで RECON ファイルの検索が可能となりました。これは, 従来から寄せられていた ILL システムへの要望にこたえたものです。

RECON ファイルは, 旧 ILL, 新 ILL システムどちらからでも御利用いただけます。

1. 利用方法

(1) 旧 ILL システムの場合

図書書誌検索・簡略表示画面の検索フィールド「FILE:」でファイル名を「REC」と指定してください。ファイル名は, 大文字, 小文字どちらでも構いません。それ以外は, 通常と同様の検索方法となります。

(2) 新 ILL システムの場合

書誌を検索する際, データベース名を「RECON」と指定してください。データベース名の指定方法や大文字・小文字の区別については, それぞれお使いの新 ILL クライアントの操作説明書・マニュアル等を参照してください。

2. RECON ファイルについて

- 目録カードを元に作成した書誌の遡及データを収録したものです。
- 現在は, 東京大学で所蔵する洋図書目録が中心のデータで, 登録件数は, 約 70 万件です。(1999 年 9 月 3 日現在)
- 目録システムでは, 図書書誌参照ファイルとして利用しています。

3. 利用上の注意点

- (1) 旧 ILL システムでは, 自動検索の対象ではありませんので, RECON ファイルを検索する場合は, 必ずファイル名を指定する必要があります。
- (2) 洋図書のデータですので, 雑誌書誌検索ではファイル名に「REC」は指定できません。
- (3) 「LOOKUP HOLDINGS」コマンドで, 所蔵レコードを参照しても, 所蔵が全く表示されない場合があります。
- (4) 東京大学の所蔵の場合, 所在確認に時間がかかる可能性があります。
- (5) RECON ファイルを元に ILL の依頼をする場合は, 必ず「所蔵典拠: RECON」とコメント欄に記入してください。

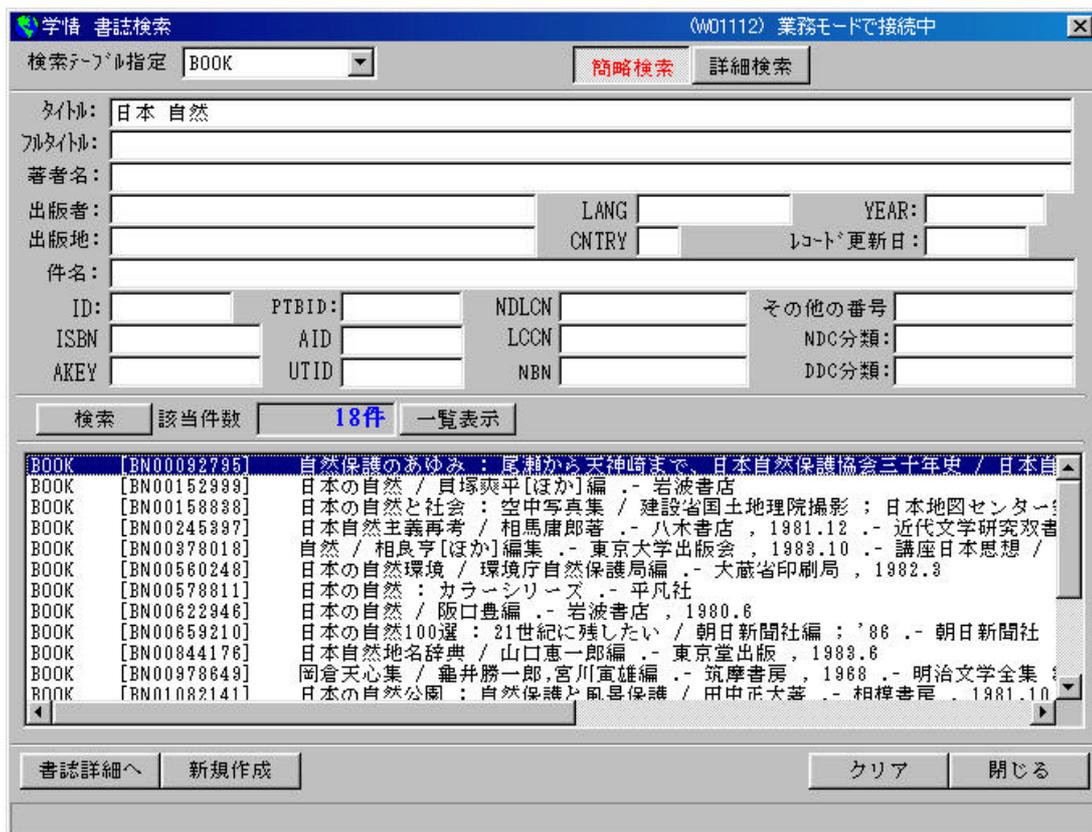
(相互協力係)

新システム対応クライアント紹介 (その5)

連載第5回目の本号では、日本電気(株)の「LICSU/21」を紹介します。

(概要)

- (1) クライアント名称： LICSU/21 Ver.2 (リックスユー/21 バージョン2)
- (2) 開発： 日本電気株式会社
- (3) クライアントの種類： 総合クライアント
- (4) 動作環境： Microsoft Windows (別途サーバとして Microsoft Windows NT, DBMS として Oracle 8 が必要)
- (5) 運用開始： 平成 10 年 12 月
- (6) 利用図書館 (業務利用を開始している館)： 兵庫教育大学, 神戸商船大学, 山梨大学ほか
- (7) 画面例(CAT)：



- (8) 特徴 (CAT)：
 - 総合的な図書館システムの一部として NACSIS-CAT/ILL 利用機能が組み込まれており、図書館側データベースへのデータ取り込み等の効率化が図られている。
 - 従来の NACSIS-CAT の操作の流れに準拠している。
 - 総合目録データベースと参照ファイルの一括検索ができる。
 - 検索インターフェースを簡略 / 詳細の 2 種類用意している。詳細検索では、絞り込み検索ができ、また、絞り込み前の検索結果に戻ることもできる。

(9) 画面例 (ILL) :

(10) 特徴 (ILL) :

よく使うコマンドは、画面にボタンとして配置されている。ボタンの配置は、画面毎に異なる。依頼時には、ILL レコードを作成してから書誌検索を行う。ILL レコード検索は、NACSIS のデータベースではなく、ダウンロードデータを元に構築された図書館システム側のデータベースを対象として行う。

《注意事項》

- ・ 各クライアントは、新システムクライアントの特徴である図書館システムとの連携機能を持ちますが、各図書館の仕様に応じて変更が加えられることがありますので、本連載では扱いません。
- ・ 検索項目、レコード表示仕様、検索対象ファイル等については、各利用者が設定できる場合が多いようですので、この部分についても言及していません。
- ・ 紹介するクライアントは、変更が加えられる場合もありますので、最新の情報については、各メーカーにお問い合わせください。

各メーカーの新システム対応クライアントの開発状況及び問い合わせ先は、以下の URL に常時掲載していますので、参考にしてください。

URL: <http://www.cat.op.nacsis.ac.jp/INFO/newcat/ncat-maker.html>

(図書目録情報係)

(白)

総合目録データベースの品質管理事例集(その 3: 雑誌編)

今回から 2 回連続で、この品質管理事例集では雑誌について取り上げていきます。

雑誌編の 1 回目は、雑誌書誌でよく見かける重複レコードの事例 3 例を紹介しています。
2 回目の次号では、雑誌所蔵レコードについて取り上げる予定です。

この事例集の中では、次のような略称で参照先の資料を示します。

| | |
|-------|-----------------------------|
| 基準 3 | 目録情報の基準 . 第 3 版 |
| 検索編 4 | 目録システム利用マニュアル . 検索編 . 第 4 版 |
| 登録編 4 | 目録システム利用マニュアル . 登録編 . 第 4 版 |
| CM | 目録システムコーディングマニュアル |
| 抜刷集 | オンライン・システムニュースレター抜刷集 |
| NL | オンライン・システムニュースレター |

1. 書誌レコード

雑誌の所蔵データを登録しようとして検索したところ、複数の書誌レコードがヒットし、どれに登録してよいか悩む場合があります。

そういった場合の判断の方法について、事例を挙げて解説します。

(1) 重複書誌レコード - 優先すべき情報源

Q 所蔵データを登録しようとしたら、情報源が異なるためと思われる複数のレコードがヒットしました。どちらの書誌に所蔵を登録するべきでしょうか？

【重複レコード例】

(レコード 1)

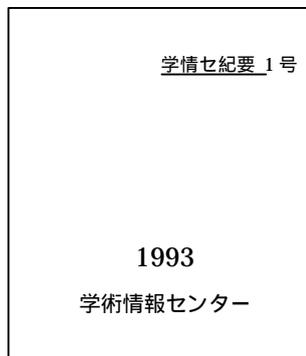
```
<AN*****1>
GMD: SMD: YEAR:1993 CNTRY:ja TTLL:jpn TXTL:jpn
ORGL:
PSTAT:c  FREQ:a  REGL:r  TYPE:p
TR:学情セ紀要||ガクヅヨウセキヨ
VLYR:1号 (1993)-
PUB:東京 : 学術情報セター , 1993-
PHYS:冊 ; 21cm
```

(レコード 2)

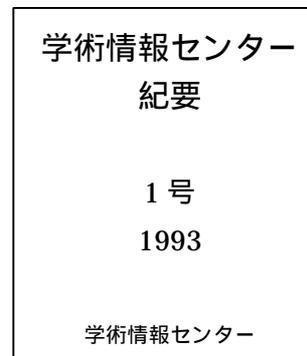
```
<AN*****2>
GMD: SMD: YEAR:1993 CNTRY:ja TTLL:jpn TXTL:jpn
ORGL:
PSTAT:c  FREQ:a  REGL:r  TYPE:p
TR:学術情報セター-紀要||ガクヅユツジヨウセキヨセター キヨ
VLYR:1号 (1993)-
PUB:東京 : 学術情報セター , 1993-
PHYS:冊 ; 21cm
VT:CV:学情セ紀要||ガクヅヨウセキヨ
NOTE:タイトルは標題紙による
```

A 次のように、表紙と標題紙とに表示されているタイトルが違っていたため、それぞれを情報源として別の書誌レコードを作成したものとされます。和雑誌の場合は、表紙が優先されます(洋雑誌の場合は標題紙)ので、表紙と同じタイトルの書誌レコード(例ではレコード 1)に登録してください。

初号表紙



初号標題紙



なで違ルイるせも表之題紙表号初

事例の解説

情報源の優先順位を間違えて、重複書誌レコードを作成した例です。

書誌レコードに記録する情報は、どこからでも採用してよいものではありません。それぞれのデータ項目毎に、根拠とする情報源の優先順位が規定されています。

この情報源の優先順位は、図書・雑誌、また和資料・洋資料それぞれに規定されています。

特に書誌同定に関わる本タイトルの情報源の優先順位は重要です。和雑誌は表紙、洋雑誌は標題紙がもっとも優先度の高い情報源とされています。

この例では、情報源を見ると、標題紙の方が表紙よりも大きくタイトルが記録されていますので、標題紙をもとに書誌レコードを作成したくなりますが、それは間違いです。

和雑誌の本タイトルの情報源としては、表紙が優先されますので、いくら小さく目立たなくとも、表紙にある形を採用しなければなりません。

発見時の対処

- このような重複書誌レコードを発見した場合は、学術情報センターに報告してください。
(抜刷集「2.5.4 (雑誌の)重複書誌の発見について」)
- その際、事実関係が確認できる情報源のコピーを、忘れずに添付してください。

対策

- 標題紙のタイトルをその他のタイトルフィールドに記述します。

【センターでの作業例】

| | |
|---|---|
| <pre><AN*****1> (レコード修正) GMD:SMD: YEAR:1993 CNTRY:ja TLL: jpn TXTL: jpn ORGL: PSTAT:c FREQ:a REGL:r TYPE:p TR:学情&lt;sub>e</sub>紀要 が&lt;sub>ク</sub> ヲ&lt;sub>セ</sub> キヨ VLYR:1号 (1993)- PUB:東京 : 学術情報&lt;sub>セ</sub>ター , 1993- PHYS:冊 ; 21cm VT:TT:学術情報&lt;sub>セ</sub>ター-紀要 が&lt;sub>ク</sub> ヲ&lt;sub>セ</sub> キヨ</pre> | <pre><AN*****2></pre> <ul style="list-style-type: none"> • 「削除予定レコード」への修正 • 所蔵の付替え(依頼連絡 / 付替報告) |
|---|---|

関連規則及び関連事例

- (和雑誌の場合)
 - TR フィールドのデータ要素の情報源は、表紙又は標題紙のある場合は初号の表紙、標題紙、背、奥付の順で採用する。(CM「6.2.1E」)
- (洋雑誌の場合)
 - 本タイトル、タイトル関連情報、並列タイトル、責任表示の規定の情報源は、AACR2R88 12.0B1 に従い、初号のタイトルページとする。
 - ただし、タイトルページを欠く記述対象の場合はタイトルページの代替物とする。
 - また、初号がない場合は、所蔵する最も古い号とする。(CM「7.2.1E」)
- 雑誌書誌レコードの作成単位は、以下の基準による。(中略) 本タイトル(従属タイトルを含む)が変遷したもの(基準 3「6.2.3 2(a)」)

ただし、「海外言語学情報より改題」等と明記されているなど、出版者のタイトル変更の意図が何らかの形で確認できた場合は、この独自規定は適用されません。

この例では、11号以降も小さいながら表紙左下部に「海外言語学情報」の表示がされていますし、出版者のタイトル変更の意図も確認できませんでしたので、タイトル変遷とはしません。

11号から新たに現れる英語タイトル "Current trends in overseas linguistics" は、並列タイトルの追加にあたります。

よってレコード4は、重複レコードです。

発見時の対処

- このような重複書誌レコードを発見した場合は、学術情報センターに報告してください。
(抜刷集「2.5.4 (雑誌の)重複書誌の発見について」)
- その際、事実関係が確認できる情報源のコピーを、忘れずに添付してください。

対策

- 途中から現れた並列タイトルを、その他のタイトル及び注記フィールドに記録します。

【センターでの作業例】

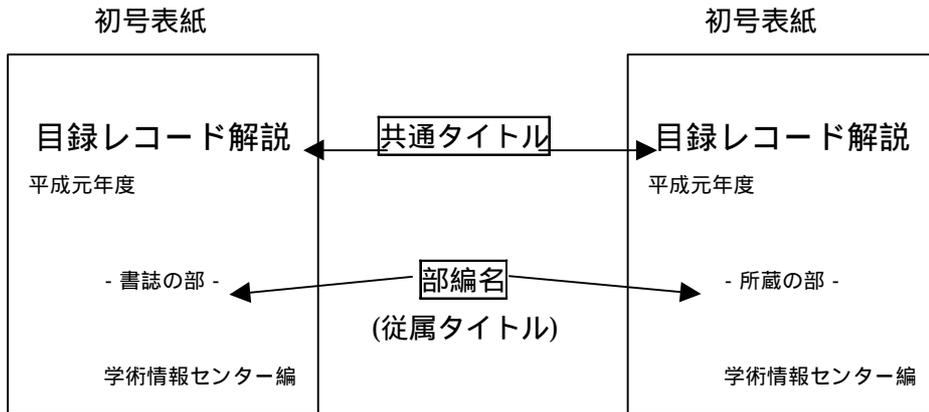
| | |
|--|---|
| <pre><AN*****3> GMD: SMD: YEAR:1995 CNTRY:ja TTL: jpn TXTL: jpn ORGL: PSTAT:c FREQ:a REGL:r TYPE:p TR:海外言語学情報 / 日本言語学学会 [編] ガイゲンゴガクジョウホク VLYR:1号 (1995)- PUB:東京 : 日本言語学学会 , 1995- PHYS:冊 ; 21cm VT:OH:Current trends in overseas linguistics</pre> | <pre><AN*****4></pre> <ul style="list-style-type: none"> • 「削除予定レコード」への修正 • 所蔵の付替え(依頼連絡 / 付替報告) |
|--|---|

関連規則及び関連事例

- レイアウトの変更に伴い顕著に表示されているタイトルが入れ替わった場合も、タイトルの変更とみなさない(遡及的には適用しない)。(NACSIS 独自規定)(CM「7.0.1 A1(6) 顕著に表示されているタイトルの変更」)
- 刊行途中で並列タイトルが変更・追加・削除された場合は、タイトル変遷とみなさず、別レコードは作成しない。(CM「7.0.1 A3 並列タイトルの変更」)
- 刊行途中で並列タイトルの変更や追加があった場合は、TR フィールドには記録せず、「その他のタイトル」として、「タイトルの種類コード」(OH)と共に VT フィールドに記録する。(CM「6.2.1 F3.3 並列タイトルの変更・追加」, CM 6.2.6 F8.1, CM 7.2.1 F3.5, CM 7.2.6 F8.1)

(3) 重複書誌レコード - レコード作成単位の違い

Q 共通タイトルと部編名とがある資料の所蔵データを登録しようとしたら、図書レコードの親書誌・子書誌のように書誌階層別にそれぞれレコードが作成されていました。その資料は、常に2分冊一緒に刊行されています。どちらに登録すべきでしょうか。



の無は書・書誌誌雑

【重複レコード例】

(レコード 5) 共通タイトルレベルの書誌

```
<AN*****5>
GMD: SMD: YEAR:1989 CNTRY:ja TTLL:jpn TXTL:jpn
ORGL:
PSTAT:c  FREQ:a  REGL:r  TYPE:p
TR:目録レコード解説 / 学術情報センター編 || 目録レコード 解説
VLYR:平成元年度 (平1)-
PUB:東京 : 学術情報センター , 1989-
PHYS:冊 ; 22cm
NOTE:「書誌の部」「所蔵の部」の2分冊からなる
```

(レコード 6)

部編レベルの書誌

(レコード 7)

```
<AN*****6>
GMD: SMD: YEAR:1989 CNTRY:ja TTLL:jpn TXTL:jpn
ORGL:
PSTAT:c  FREQ:a  REGL:r  TYPE:p
TR:目録レコード解説. 書誌の部 / 学術情報センター編 ||
目録レコード 解説. ショウノブ
VLYR:平成元年度 (平1)-
PUB:東京 : 学術情報センター , 1989-
PHYS:冊 ; 22cm
```

```
<AN*****7>
GMD: SMD: YEAR:1989 CNTRY:ja TTLL:jpn TXTL:jpn
ORGL:
PSTAT:c  FREQ:a  REGL:r  TYPE:p
TR:目録レコード解説. 所蔵の部 / 学術情報センター編 ||
目録レコード 解説. ショウノブ
VLYR:平成元年度 (平1)-
PUB:東京 : 学術情報センター , 1989-
PHYS:冊 ; 22cm
```

A 部編毎に作成されている書誌レコード(例ではレコード6,レコード7)に登録してください。

事例の解説

書誌レコードの作成単位を間違えたために、重複書誌レコードを作成した例です。

資料に部編名が存在する場合、書誌レコードは、原則として部編毎に作成します。共通タイトル部分では、作成しません。したがって、この例では、レコード5は不採用、レコード6とレコード7を採用、ということになります。

しかし、階層がある場合は、いつでも部編毎に書誌レコードが作成できるというわけではありません。部編レベルでの作成にも条件があります。部編毎に書誌レコードを作成するには、「部編単位で安定して刊行している」とともに、「部編単位で巻号付けがなされている」ことが必要です。

逆に、共通タイトルが不安定なこともあります。号によって情報源上に現れたり消えたりするなど安定していない場合の共通タイトルは、TR フィールドに記入するのではなく、その他のタイトルフィールドに「PT」コードを用いて記録してください。

本タイトルは、その資料を同定し、タイトル変遷の基準となる大事な情報です。目録規則に基づいた上で、できるだけ安定したものを採用するよう心がけてください。

発見時の対処

- このような重複書誌レコードを発見した場合は、学術情報センターに報告してください。
(抜刷集「2.5.4 (雑誌の)重複書誌の発見について」)

【センターでの作業例】

| |
|---|
| <p><AN*****5> レコード 5</p> <ul style="list-style-type: none">• 「削除予定レコード」への修正• 所蔵の付替え(依頼連絡 / 付替報告) |
|---|

関連規則及び関連事例

- 雑誌書誌レコードは、原則として、逐次刊行物書誌単位で作成する。集合書誌単位のレコードは、作成しない。(基準 3 「6.2.3 雑誌書誌レコードの作成単位」)
- (逐次刊行物の)階層関係は、逐次刊行物書誌単位のレコードの TR フィールドに、本タイトルの共通タイトルと従属タイトルとして記録することを原則とする。(基準 3 「6.3.1 書誌構造の表現」)
- 本タイトルは、部編に共通するタイトルと、個々の部編名または部編記号から構成される場合がある。この部編に共通するタイトルを「共通タイトル」、部編名または部編記号の部分を「従属タイトル」という。共通タイトルと従属タイトルは、原則として同じ情報源上に表示されていなければならない。(CM 「6.2.1 F2 従属タイトル」)

- 共通タイトルが従属タイトルと同一情報源にあたりなかったりする場合、または号によって表現がまちまちである場合、この共通タイトルは TR フィールドには記録せず、VT フィールドに「タイトルの種類コード」(PT)と共に記録する。(CM 「6.2.5 共通タイトルが不安定な場合」)

対策

(検索時)

- 共通タイトルと部編名とを同時に指定する検索だけでなく、共通タイトルだけ部編名だけの検索も行う。

(登録時)

- 手許の 1 冊だけで書誌レコードを作るのではなく、複数の号の情報源で、共通タイトルや部編記号・部編名の安定性を確認した上、どの階層で書誌レコードを作成することが妥当であるか慎重に判断する。
- 参照ファイルからの流用入力の場合、総合目録データベース(NC)の基準とは異なる書誌作成単位のレコードがあるので、そのまま流用するのではなく、必ず現物と照合の上、作成単位や本タイトルの記述について判断する。

(雑誌目録情報係)

会議開催報告

平成 11 年度第 1 回 国立大学図書館協議会と学術情報センターとの業務連絡会

[日時]

平成 11 年 5 月 28 日 (金) 10:00 ~ 12:00

[議事]

1. 中国語資料対応目録システムについて
2. 情報研究の中核的研究機関について
3. ドキュメント・デリバリーの改善について
日米両国におけるドキュメント・デリバリー・サービスの改善に関するラウンド
テーブル及び日米両国の ILL 改善のための試行実験プロジェクトについて
学術情報センターと RLG との協力提携について
日本複写権センターとの懇談について
4. オンラインジャーナルについて
電子ジャーナル・フォーラムとワーキング・グループの設置について
英国物理学会刊行の電子ジャーナルの試験提供について
5. 学術情報センターの教育研修事業について
CAT/ILL システムの地域講習会の進め方について
今後の研修の在り方について
6. 二次情報データベースについて
7. その他

(図書目録情報係)